

丹波小  
学校便り



# 丹波の流れ



発行日

令和5年7月27日

第4号

文責：芹川

## 夏がくれば思い出す…

猛暑日が続き、日中の暑さには堪えますね。みなさま、暑中お見舞い申し上げます。しかし、不思議なもので、夕方になると日中の暑さも緩み、蝸の鳴き声と、どこからともなく蚊取り線香の香が漂い、一日の終わりを感ぜさせるなんとも風情のある、とても癒されるひと時が訪れます。世の中に目を向けると、少しずつ行事も戻りつつあり、様々な場所で盆踊りや夏祭り、花火大会などが開催され、人々の笑顔から人とのつながりの大切さを改めて感じます。また、夏は、祭りだけでなく、「平和」についても考える季節だと思います。

日本は78年前、「戦争をしない国」になりましたが、多くの大切ないのちを失いました。私の父の家は裏に飛行場があった為、毎日のように空襲があり、小学校1年生の時、機銃掃射に追われ、大人が助けてくれ命びろいをしたそうです。叔父は満州鉄道で働いており、右手に銃で撃たれた跡があり、戦争の話は幼いころから聞かされて育ちました。そのような環境からか、広島原爆資料館、原爆ドーム、知覧（特攻隊記念館）や長崎の平和記念館など何度も訪れ確認したことは、『誰も死にたくて死んだ人は1人もいない』ということです。

「愛する人、家族を守るため」という大義名分を自分に言い聞かせ亡くなっていきました。

「戦争の話は子どもたちには刺激が強すぎる」「恐怖心をあおるだけ」という声もあります。日本の歴史上、消すことのできない事実でもあり、目をそらすことのできないことと思います。現実社会でも凶悪な犯罪が多発していることや子どもたちが楽しんでいるゲームでもかなり刺激の強いものが多いです。このことから、戦争のことや人と人が争うことは恐ろしいことなのだとこのことを知り、伝えていくことは大切なことだと思います。

実際に体験していない私たちには当時の人たちの思いをわかることはできません。しかし、慮ることはできます。おいしい食事が毎日食べられるということ、明日という日が保障されていること、家族や友達と過ごせる毎日が保障されていることにありがたく感じると共に、1年に1度、この季節に「平和」について考えてみるのはいかがでしょうか。

## 人権教室

6月23日に「人権教室」を行いました。人権擁護委員会の方たちが来校し、お話を通して人権とはどういうことなのか、なにが大切なのかを子どもたちに考えさせるとともに、さらに世界に目を向け、児童労働や子どもの権利条約などにも触れながら、さまざまな角度から

「人権」ということについて学習しました。1年生の子どもたちに「人権」といっても深くは理解できないと思います。しかし、「**周りの人を大切にすること＝自分のことも大切にすること**」ということは1年生であってもわかります。みんなが幸せに暮らしていけるように、お互いを思いやる気持ちや相手を理解する気持ちを育てていきたいと改めて思いました。



人権教室のあと、校庭に出てメッセージを添えた風船をいっせいに飛ばしました。また、「人権の花」もいただき、玄関に咲いています。どうぞ、見にいってください。

さて、ここで

### 『天国と地獄の話』を紹介いたします。

昔、ある男がえんま大王様に会いに行き、天国と地獄というのは、どういう世界なのかを聞きました。すると、えんま大王様は、男に、天国の様子と地獄の様子をそれぞれ見せてくれました。まず、地獄では、ちょうど食事の時間だったので、人々が、長い箸を持って大きい鍋の前に集まっていました。



この地獄では、長い箸で食事をしなければならない決まりなのです。

人々は長い箸で、鍋の中のごちそうをとって食べようとするのですが、あまりに長い箸で、どうしても自分の口にごちそうが届きません。それでみんな、何も食べられずお腹をすかせ、やせこけて、他の人の食べ物を横取りしようとして、けんかばかりしていました。えんま様は、次に天国を見せてくれました。

天国も食事の時間でしたので、人々は、地獄と同じ、長い箸をもって、大きい鍋の前に集まっていました。天国でも、地獄と同様、長い箸で食事をしなければならない決まりなのです。でも、天国の人々は、おだやかな顔をして楽しそうにごちそうを食べていました。長い箸で、2つ隣の人に食べさせ、自分も2つ隣の人から食べさせてもらう形を取り、おたがいに仲良く他の人とごちそうを食べているのです。

「こうして見ると、地獄にいる人々は自分のことばかり考えているためにいつまでもけんかをしていて何も食べられず、天国の人々はおたがいを思いやっているので仲良くらせるのだ」と、えんま大王様が教えてくれました。

これはとても有名なお話です。世の中の人たちがみんなお互いのことを思いやることができたら、きっとみんなが幸せになれるでしょうし、「戦争」もなく、そもそも「人権教室」など必要ないのです。



# プール開き

7月5日（水）プール開きが行われました。児童代表の守屋絆起くんが校長と一緒に水の神様にお酒と塩を供え安全を祈願しました。その後はみんなで準備体操を行い、今季最初のプールを楽しみました。水泳の授業では、泳力をつけるだけでなく、いざという時のため「いのちを守る」水の授業も兼ねています。



## 救命救急法講習会

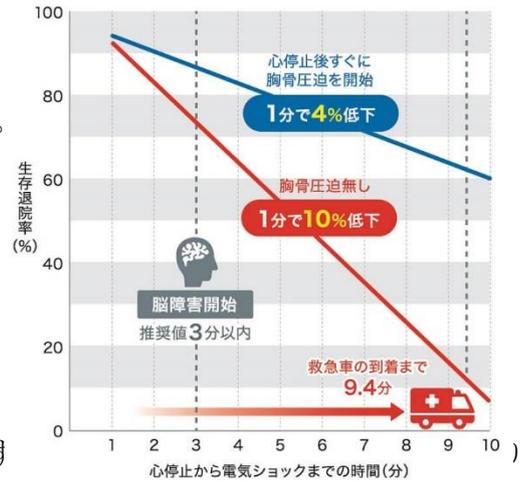
7月3日（月）大月消防署丹波山駐在所のみなさんに来校頂き、本校体育館で救命救急法講習会を行いました。

夏休み中、本校職員と保護者の方はプールの監視を行います。プールは楽しい場所でもあります。が、一歩間違えるといのちの危険性もある場所です。また、救急車が到着するまでの間に蘇生法やAEDを使うことにより、生存率も上がることが図からもわかります。消防署の方たちはプロです。ません。



『自分（たち）のいのちは自分（たち）で守る』ことの1つとして、私たちにできることは少しずつ増やしていくことが、大事です。

電気ショックまでの時間と生存退院率



## 1学期が終わりました



4月の入学式から73日間にわたる1学期が終了しました。終業式では校長より「丹波小学校の美しいもの」について話をしました。丹波小学校の美しいもの、それは、14名の子どもたちが様々な部分で一生懸命に頑張ったことです。一人ひとり頑張っていたことについてあげ「一生懸命に頑張った姿が美しい」と褒めました。

自分の名前が呼ばれると子どもたちはうれしそうに笑みを浮かべたり、頷きながら聞いたりしていました。また児童代表の話では、中平全さん、石川桜さん、守屋絆起さんら3人が1学期の振り返りや夏休みの抱負を発表しました。みんな1学期はよく頑張りました。健康と安全に注意し、よい夏休みを過ごして下さい。

丹波小学校の保護者のみなさま、地域のみなさま、おかげさまで1学期が無事終了できました。この1学期間、子どもたちがさまざまな体験をし、多くの学びのもとに成長できたのは、みなさまのおかげです。本当にありがとうございました。2学期は、9月9日（土）に、丹波小中学校運動会が予定されております。「丹波小学校の美しいもの（子どもたちの一生懸命頑張る姿）」が沢山見られます。ぜひ、見にいらしてください。



